



今月生まれのお友達をご紹介します

# Happy Birthday



えぐさ はるき  
江草 晴紀ちゃん  
(下豊松)

☆親の願い 晴紀の笑顔は家族の元気のもと。やさしくて強い人になってね。



やまもと はると  
山本 遥斗ちゃん  
(井関大矢)

☆親の願い 素直で心の優しい子に育ってください。



あかぎ ひな  
赤木 陽菜ちゃん  
(仙養東)

☆親の願い 陽菜の笑顔を見るだけで、元気になります。これからもその笑顔ずっと見せてね。



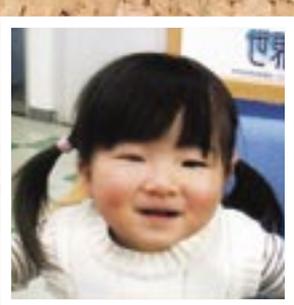
きど さくらちゃん  
(小島)

☆親の願い みんなに愛される優しい子に育ってね。



みずの さき  
水野 咲希ちゃん  
(小島)

☆親の願い 明るく元気に優しく笑顔いっぱい咲かせてすくすく育ってね。それがお父さんお母さんの希です。



でぐち てんか  
出口 天花ちゃん  
(福永)

☆親の願い いつも笑顔で!!



ささき もえ  
佐々木 萌ちゃん  
(いちば)

☆親の願い 健やかに育ってね

「疎開児童の記憶を絶やしてはいけない」との願いを込めて植樹される「カイの木」。呉から高蓋に疎開していた方から寄贈されたことがきっかけで始まり、今までに14本が植えられました。

「三和郷土史研究会」代表梅岡さんは、小学校の沿革史を読むうちに、神石高原町にも広島から疎開をしてきた児童がいることを知り、記録にまとめ、残したいの思いから調査を開始されました。呉市辰川小学校の児童であることはわかったものの、学年も様々な上、同一学年の人数も多く、戦火による住所の変更や女性の嫁ぎ先が広範囲であることもあり調査は難航。苦労の末、高蓋に疎開していた23名中、19名もの氏名がわかりました。平成11年には、当時生活していた長善寺にて、呉と高蓋の旧友の再会が50数年ぶりに果たされました。また、翌年には、引率していた奥野シズエ先生が詠われた短歌「帰れるわねとそっとささやく疎開児に 我も無言でそととうなずく」が歌碑となり、高蓋小学校に設置されるなど、その活動は広がっています。

梅岡さんは、奥野先生の歌から「原爆だけが戦争の被害ではありません。戦争が終わり、疎開先から帰れる喜びを大きな声ではなくささやく声でしか表現できない。それだけ戦争は人を抑圧していた。これも、忘れてはいけない戦争の被害です」と、学童疎開を通じて戦争の記憶を後世に伝えていきたいと話されました。

## 神石高原町の一番星 No.14 み～つけた



高蓋自治振興会の梅岡 壽啓さん